MAN 301 OS ver.1.2

差分 OPERATING MANUAL

MAN 301 OS ver.1.2 差分取扱説明書

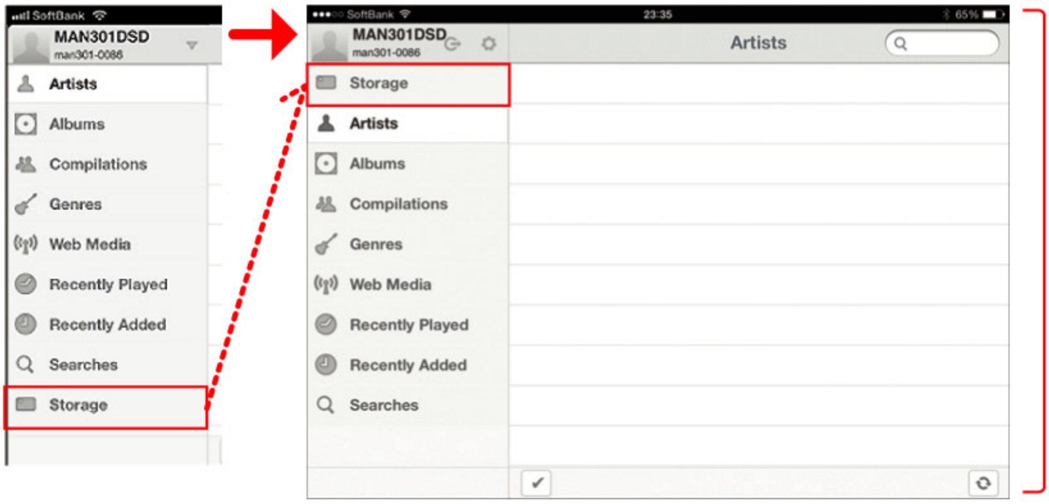
WEISS

Issue：2014.11. 日本語版 Ver.1.2.0

1 旧バージョンからの操作画面の主な変更点

1）ライブラリー画面の変更点

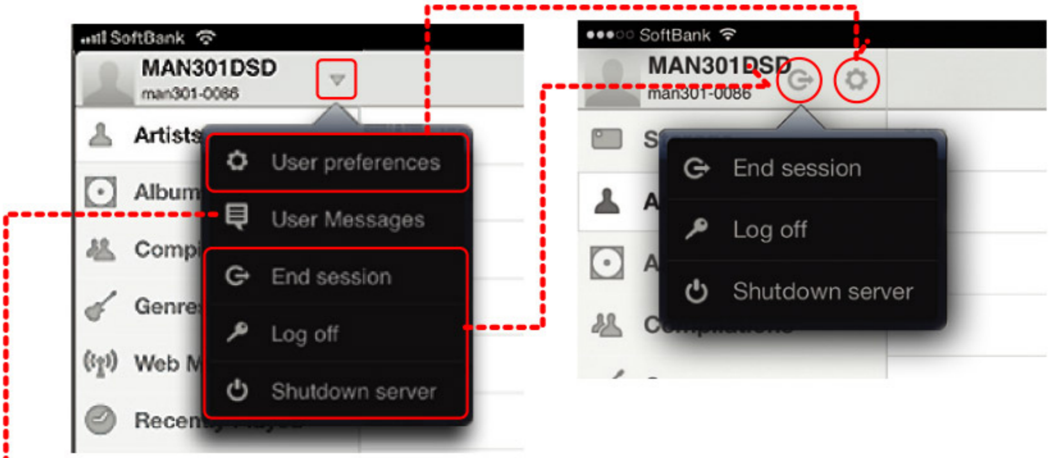
①…メニュー項目のトップに「Strage」が移動しました。



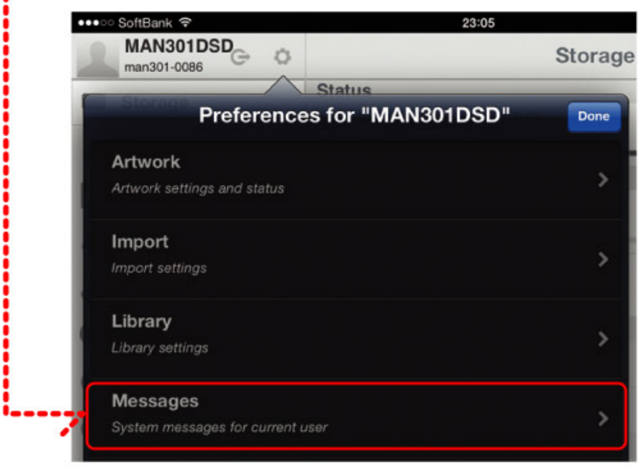
ライブラリー

②…「User Preferences」の起動は ⚙ に移動しました。

「End Session」「Log off」「Shutdown server」は ⟲ に移動しました。

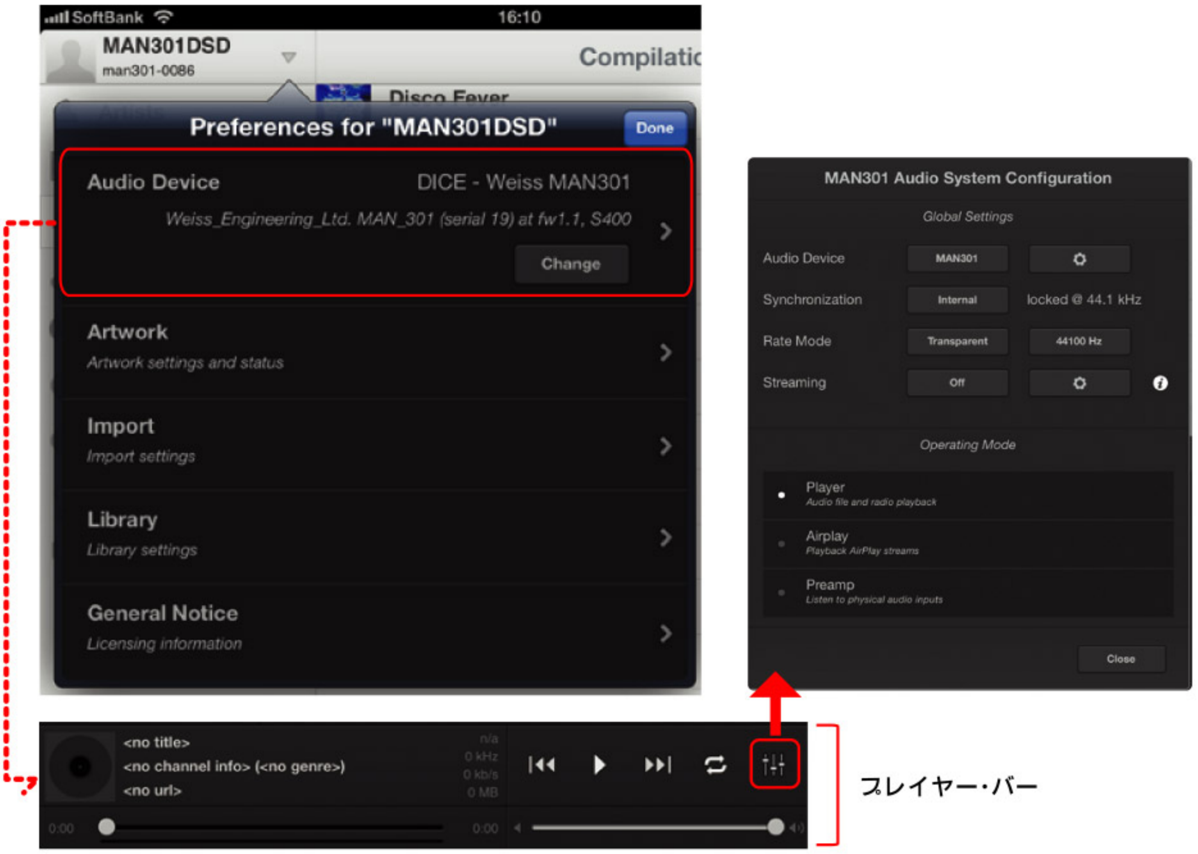


③…「User Messages 」は「Preferences」内の「Messages」になりました。



2) Preference画面の変更点

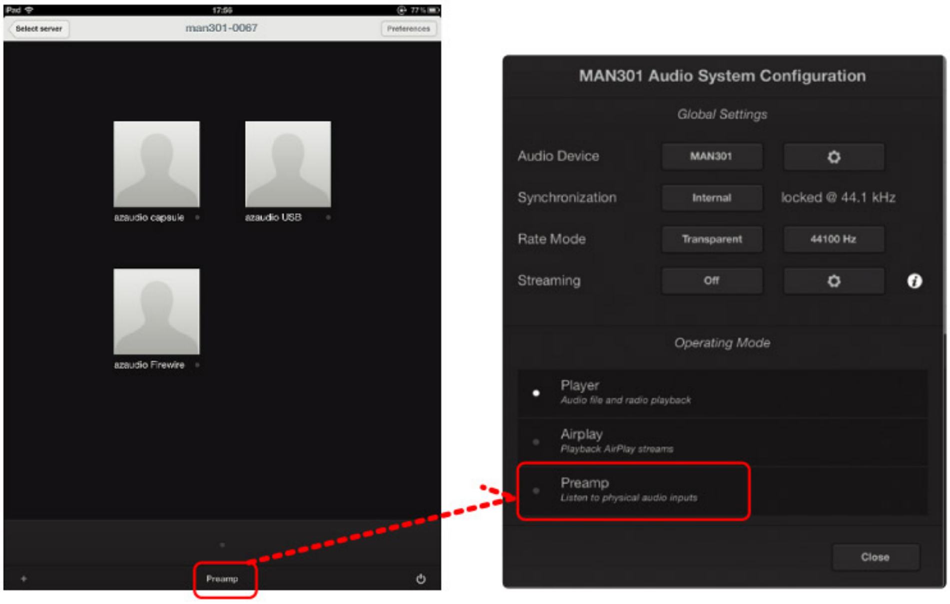
①…「Audio Devices」がプレイヤー・バーの に移動しました。



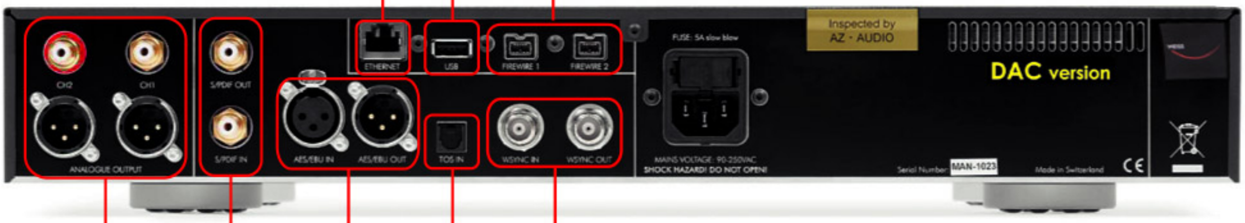
②…「Audio Device」の画面・名称・機能は大幅に変わりました(詳しくは次ページ以降で紹介)。

3) Preampモード切り替えの変更点

①…Preamp モードへの切り替えボタンは、アカウント画面から「Audio System Configuration」に移動しました。



2　オーディオ入出力設定

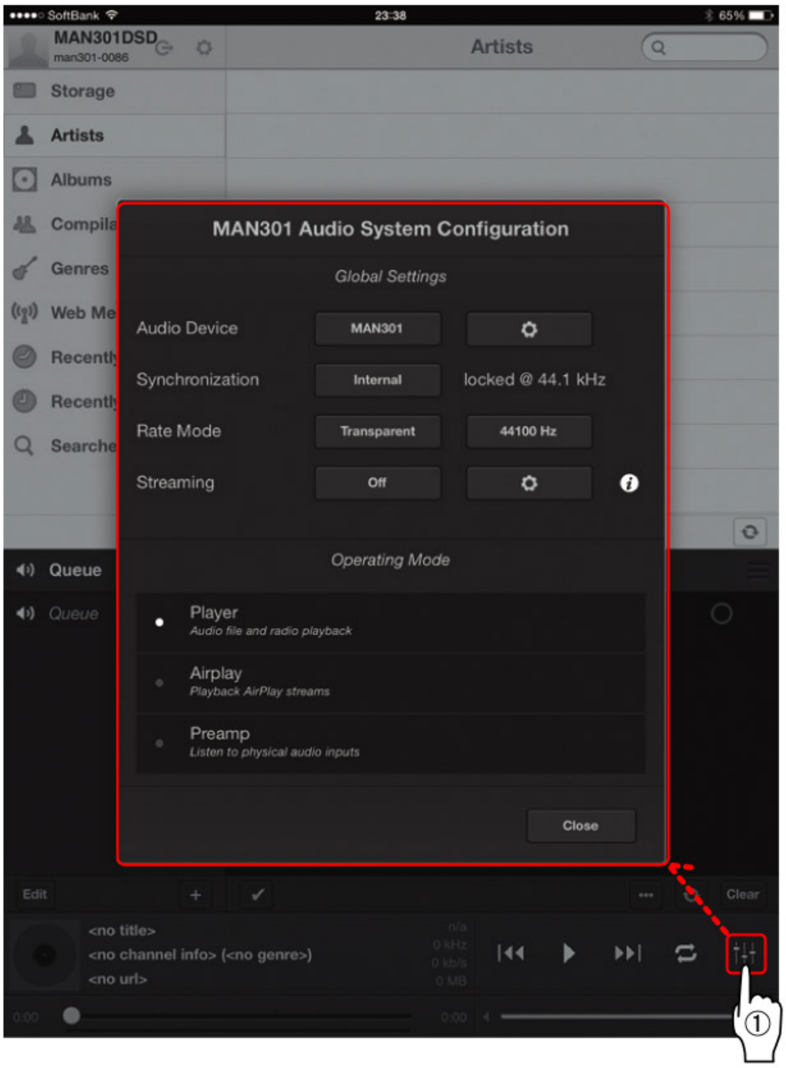


■デジタル入力　1 × XLRコネクタ(AES/EBU)
1 × RCAコネクタ(S/PDIF)
1×Toslink

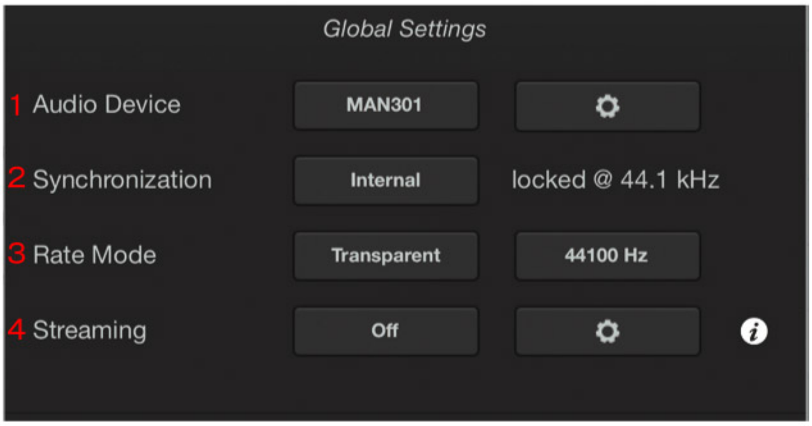
※ ver. 1.2からFireWire 800は省かれました。

1）オーディオ入出力設定

ログインしてユーザー画面・右下の アイコンをタップすると(①)、以下のような入出力設定メニューが表示されます。



- 設定画面・上半分の "Global Settings" では、音源再生に関する全般的な設定をします。

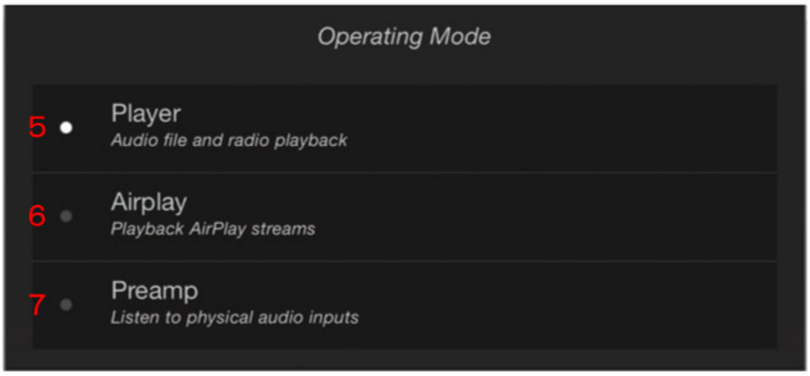


1…「**Audio Device**」(P5) →内蔵・外付け問わず D/A コンバータに関する設定をします。

2…「**Synchronization**」(P9) ／ 3…「**Rate Mode**」(P10)
→内部 / 外部クロックのサンプリング周波数に関する設定 をします。

4…「**Streaming**」(P11) →ネットワーク上のコンピュータやスマートフォンに MAN301DSD で再生した音源を配信できるようにするための設定をします。

- 設定画面・下半分の "Operating Mode" は、再生モードを切り替える画面です。



5…「**Player** 」(P13) →通常のネットワーク・プレイヤー・モードです。

6…「**Airplay**」(P13) → Airplay に対応した機器からの音源を無線で受けて MAN301DSD で再生するモードです。

7…「**Preamp**」(P14) →プリアンプ・モードで使用する場合には。ここで切り替えます。

次頁以降でこれらの設定内容について説明致します。

A 【Global Setting】

1.「Audio Device」の設定

①…ここには現在使用されている D/A コンバータが表示されています。USB ／ FireWire などの外部 D/A コンバータを接続した場合はここで選択すると、選択された DAC が表示されます。

注) 外部 D ／ A コンバータの接続方法

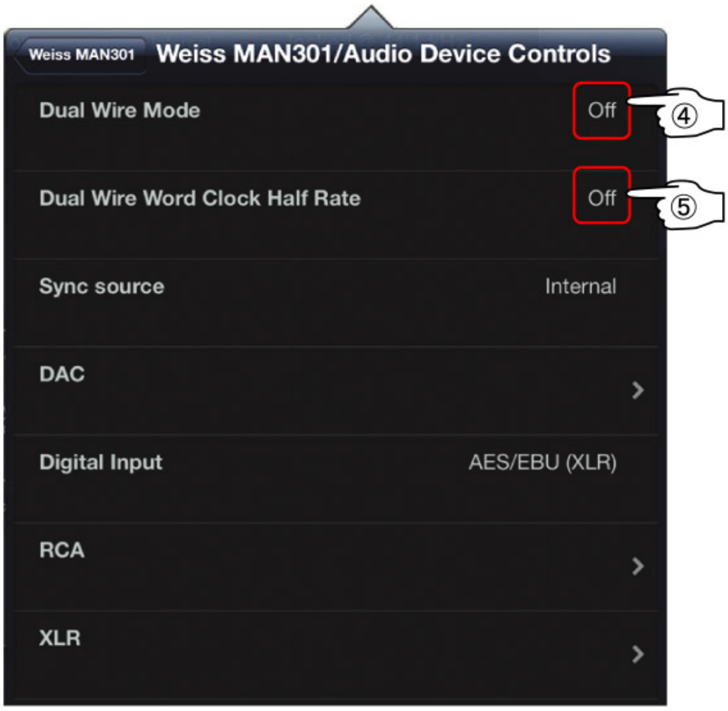
MAN301DSD に外部の D/A コンバータを Firewire または USB で接続する場合、両方とも電源を切った状態で接続します。電源のオン / オフは次の順序を必ず守って行って下さい。

電源オン：外部 DAC → MAN301 の順にスイッチ ON
電源オフ：MAN301 → 外部 DAC の順にスイッチ OFF

これで外部の D/A コンバータは Audio Device の項目にリストアップされます。D/A コンバータを切り替える場合には、選択した後にいったん Player Mode からログオフして下さい (他のモードに切り替える)。再度ログインすると切り替わります。

②… アイコンをタップすると、D/A コンバータに関する設定メニューが表示されます。

③…「Audio Device Controls」の右端の「>」をタップすると、次頁の設定項目一覧が表示されます。



④…「**Dual Wire Mode**」の設定をします。

「Dual Wire Mode」ボタンは、外部 D/A コンバーターを使用時にデュアルワイア接続で動作させるものです。通常の使用では「Off」の設定にしておいて下さい。

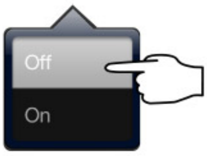
注)デュアルワイア・モードはデュアルワイア出力をサポートしている WEISS の MEDEA+ OP1-BP DSD や MEDUS などの D/A コンバータを接続する際での使用を推奨しています。

デュアルワイア・モードでは XLR 出力が左チャンネル、RCA 端子が右チャンネルになります。対応するサンプリング周波数は 176.4KHz と 192KHz でのみ有効となります。その他のレートではシングルワイアとなります。

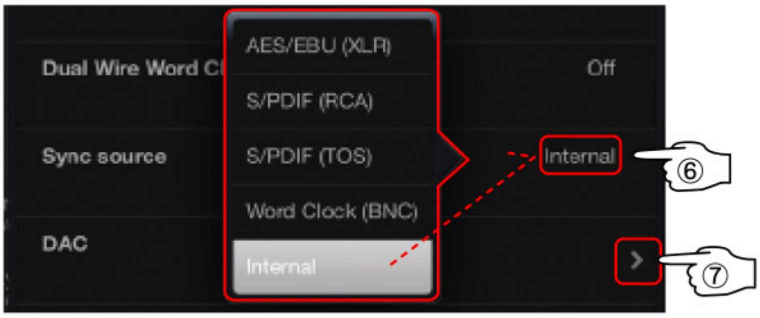
ちなみにデュアルワイア・モードでは、RCA 出力の設定、すなわちボリュームトリムとミュートのオン・オフは関係せず、XLR 出力の設定（ボリュームトリムとミュートのオン・オフ）が、XLR と RCA の両方の出力に有効となります。

⑤…「**Dual Wire Word Clock Half Rate**」の設定をします。

「Dual Wire Word Clock Half Rate」では BNC ワードクロック出力コネクタのサンプリング周波数を選択します。「Off」にした場合には、BNC のサンプリング周波数は現状のサンプリング周波数と同じですが、「On」にするとデュアルワイヤ・モードで 176.4kHz の場合、BNC は 88.2kHz になり、192kHz は 96kHz になります。
通常の使用では「Off」の設定にしておいて下さい。



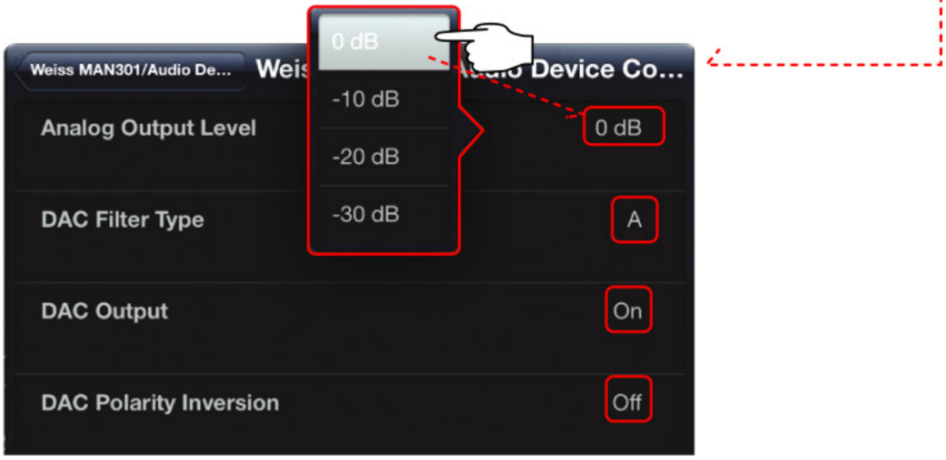
⑥…「**Sync source**」ではサンプリング周波数を同期させるクロック・ジェネレータを選択します。



「internal」をタップするとクロック・ジェネレータの接続先が選択できます。
外部クロック機器を使用しない場合には「**Internal**(内部クロック)」が標準の設定です。
(P9 の「Synchronization(クロック同期)」の設定と同じ動作で、相互に連動しています)

⑦…「**DAC**」の設定をします。
「DAC」の「>」をタップして DAC の設定項目を呼び出し、各項目を設定・確認します。
※この項目は DAC バージョンのみです。

■ DAC 項目の詳細は以下の通りです。

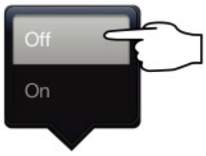


・「Analog Output Level」
D/A コンバータのアナログ出力レベルが、0、－10、－20 、－30dB の 4 段階に設定できますので、デジタルフェーダーの音量調整がしやすいように設定して下さい。フェーダーを最大の位置にした時に、その音量が試聴時に最大になるように設定すれば良いでしょう。

・「DAC Filter Type」
D/A コンバータのオーバーサンプリングフィルタのタイプを変えることができます。A タイプはエイリアスの効果がより小さくなりプリエコーがより大きくなる急峻なフィルタで、B タイプはエイリアスの効果がより大きくプリエコーは小さくなる穏やかなカーブです。お好みの方を選んでください。

- 「DAC Output」

  D/A コンバータの出力を On / Off することができます。

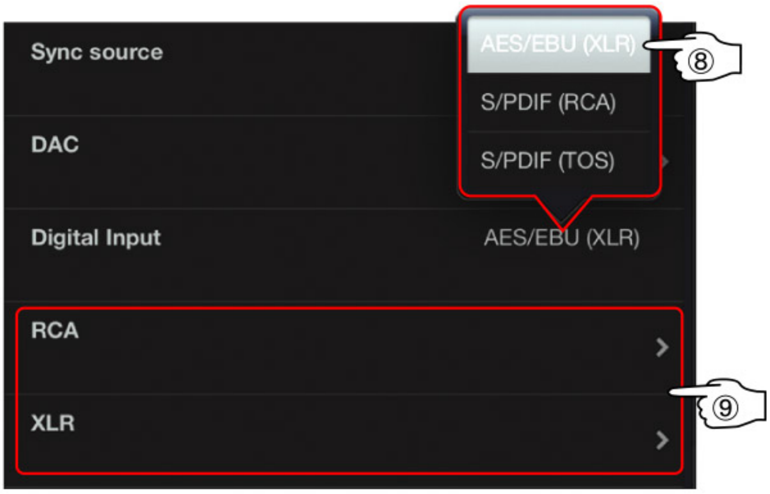


- 「DAC Polarity Inversion」

  D/A コンバーター出力の極性（絶対位相）を反転させることができます。これは録音時の極性（絶対位相）が正しくないときに役立ちます。「On」にすると反転します。通常時は「Off」にして下さい。

⑧…**「Digital Input」**の設定をします。

デジタル入力を AES/EBU(XLR)、S/PDIF(RCA) または S/PDIF(TOS) から選択します。タップすると下記の画面が表示されます。



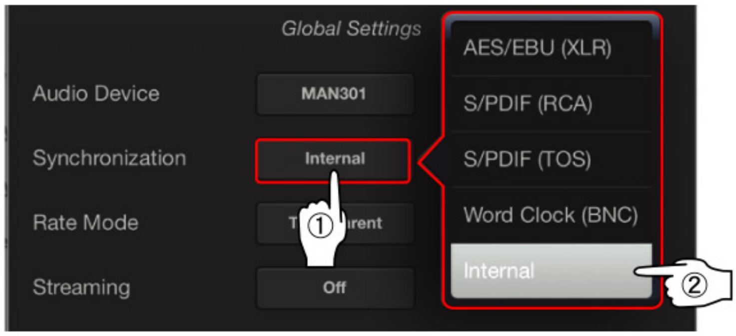
⑨…**「RCA/XLR」**の設定をします。

RCA または XLR の項目の「>」をタップすると、下記の画面が表示されます。

このポップアップ画面で、XLR/RCA それぞれの出力について個別に On/Off できます。

⑩…「Audio Device」の設定画面に戻り「Audio Device Status」の右端の「>」をタップすると、現在のサンプリング周波数とクロック同期の作動状況が表示されます。

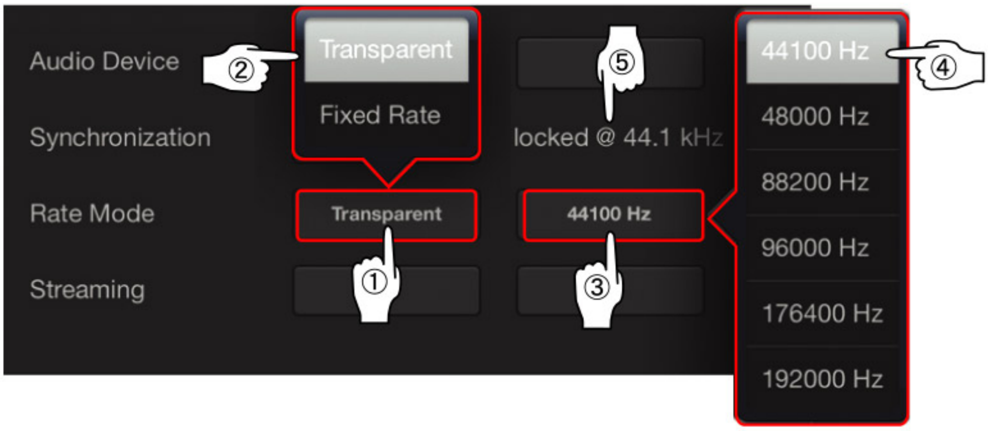
2.「Synchronization」(クロック同期) の設定



①…ここをタップすると、サンプリング周波数を同期させるクロック・ジェネレータを選択するメニューが現れます。ここでは接続されているデジタル入力機器、外部ワード・クロック (BNC 接続)、内部クロックから選択できます。

②…外部クロック機器を使用しない場合には「**Internal** (内部クロック)」が標準の設定です。
(P7 の「Sync Source」の設定と同じ動作で、相互に連動しています)

3.「Rate Mode」(サンプリング周波数のモード) の設定



①…ここをタップすると、サンプリング周波数の二つのモードを選択するメニューが現れます。

・「Transparent」

音源と同じサンプリング周波数を再生する標準モードです。

「**Internal**（内部クロック)」を使用している場合には、MAN301DSD が自動的に音源と同じサンプリング周波数を選択しますので、この設定にして下さい。

・「Fixed Rate」

音源のサンプリング周波数には関係なく、再生する周波数を固定して再生するモードです。そのためどんな周波数音源も、ここで選択された周波数に変換され再生されます。96kHz 以上のサンプリング周波数に対応していない古い D/A コンバータを接続している場合にはこちらを選択します。

また DSD 音源を Fixed Rate で再生する場合には 176400Hz に設定して下さい。

②…必要に応じて上記の二つのモードから選択して下さい。 **通常は「Transparent」です。**

③…ここをタップするとサンプリング周波数を選択するメニューが現れます。**「Fixed Rate」で使用する場合のみ**設定して下さい。

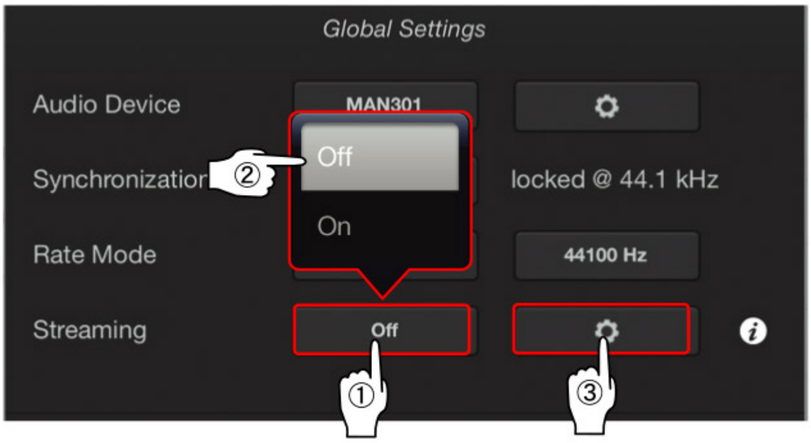
④…設定する周波数をタップして選択して下さい。

⑤…音源を再生すると、ここに再生時のサンプリング周波数が表示されます。

注) 外部クロックの接続・設定について

MAN301DSD に外部クロック・ジェネレータ、あるいはサンプリング周波数が固定された外部クロック・ジェネレータを使用する場合には、取扱いに注意を払って下さい。外部クロックを使用時のサンプリング周波数の設定は P18 を参照して下さい。

4.「Streaming」(ネットワーク配信) の設定

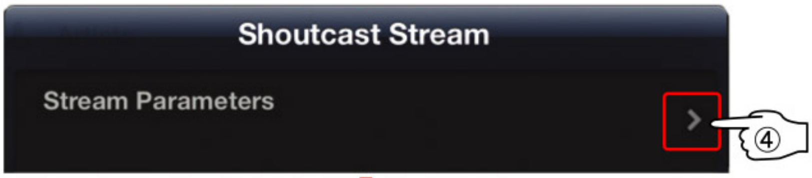


ここでは家庭内のネットワークに接続されている機器に、MAN301DSD で再生している音源を配信するための設定をします。

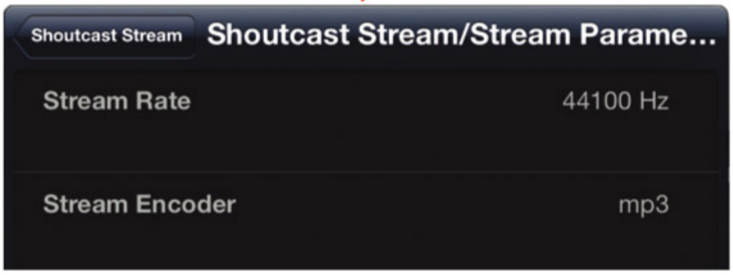
①…ここをタップすると On / Off メニューが現れます。

②…タップして「Streaming」の機能を On / Off します。

③… をタップすると「Stream Parameters」の画面に切り替わります。



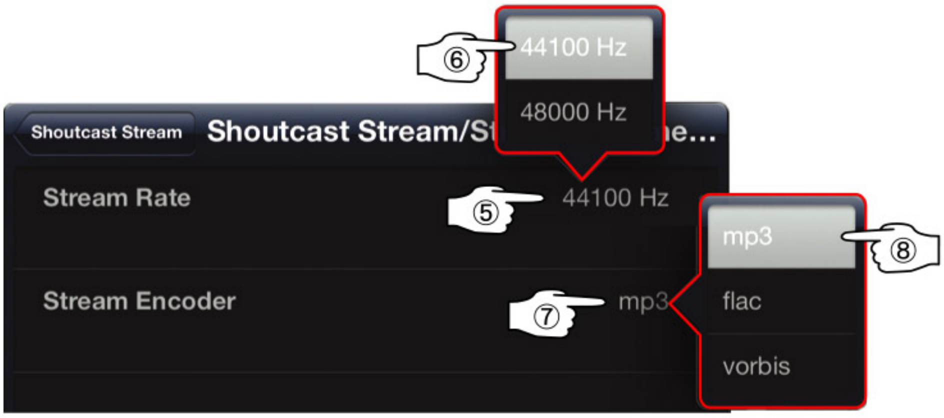
④…「>」をタップすると設定項目画面に
切り替わります。



・「Stream Rate」
配信する音源のサンプリング周波数を 44.1kHz と 48kHz から選択します。

・「Stream Encorder」
配信する音源のデータ圧縮形式を mp3・flac・volbisto のいずれかに変換します。

・mp3…ビットレートの最も低い不可逆圧縮形式
・flac…ビットレートは高いけれど最も品質の良い可逆圧縮方式
・vorbis…ビットレートの最も低い不可逆圧縮形式



⑤…ここをタップするとサンプリング周波数の選択メニューが現れます。

⑥…44.1kHz と 48kHz からいずれかを選択します。

⑦…ここをタップするとデータ圧縮形式の選択メニューが現れます。

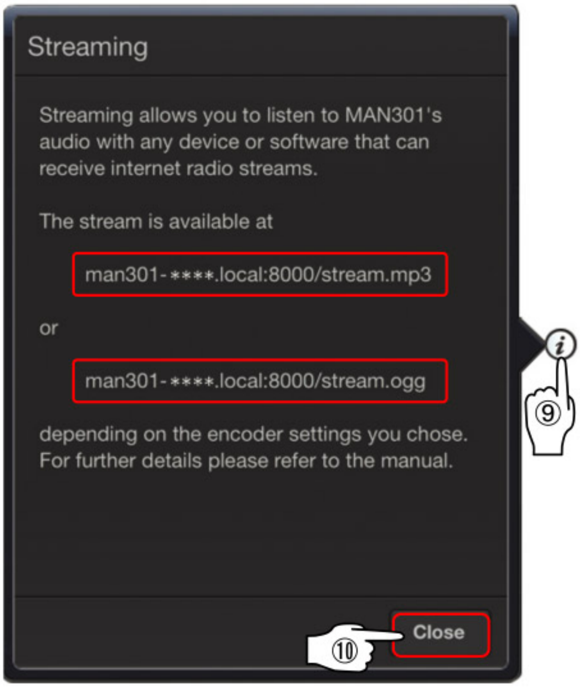
⑧…mp3・flac・volbisto のいずれかを選択します。

⑨… をタップするとストリーミング・アドレスが表示されます。

「man301-****.local:8000/stream.mp3」の **** の部分にはお使いの MAN301DSD のシリアルナンバーが入っています。

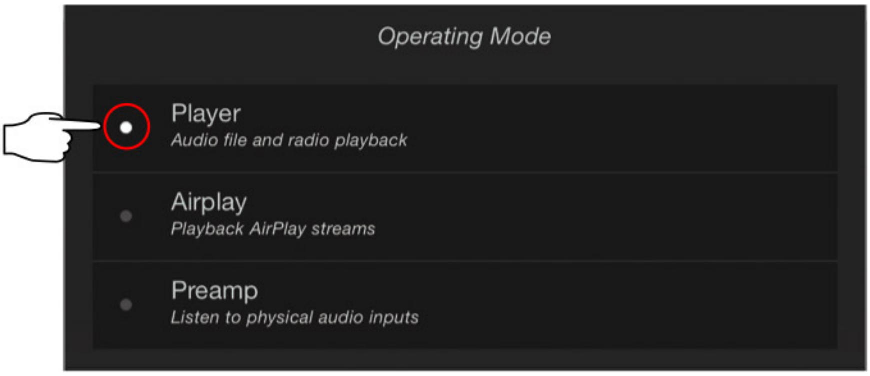
お持ちの PC やスマートフォン等のストリーミング受信機器で MAN301DSD で再生している音源を聴く場合にはこのアドレスを入力して下さい。

⑩…「Close」をタップするとこの画面は閉じます。



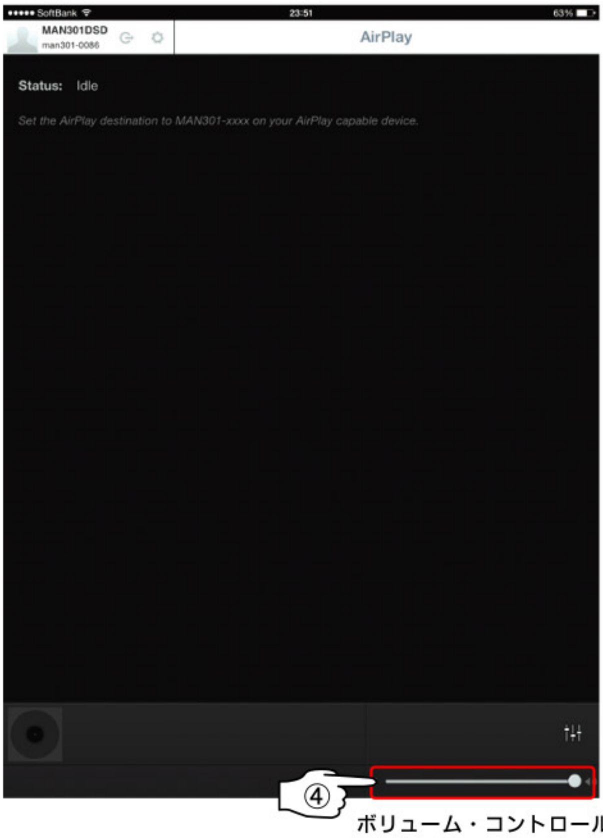
B 【Operating Mode】

この画面では「●」をタップして三つの操作モードを切り替えることができます。



1.「**Player** 」→通常のネットワーク・プレイヤー・モードです。接続したNASやハードディスク、CD等からの再生にはこのモードを使用します。

2.「**Airplay**」→ Airplayに対応した機器からの音源を無線で受けてMAN301DSDで再生するモードです。Airplayに切り替えると以下のような画面になります。これで受信できます。



ボリューム・コントロール

Airplayの再生側の設定は機器によりますが、リモコンとしているiPadからAirplay再生する方法を紹介しましょう。

①…iPad画面下を上方向にスワイプして操作画面を出します。

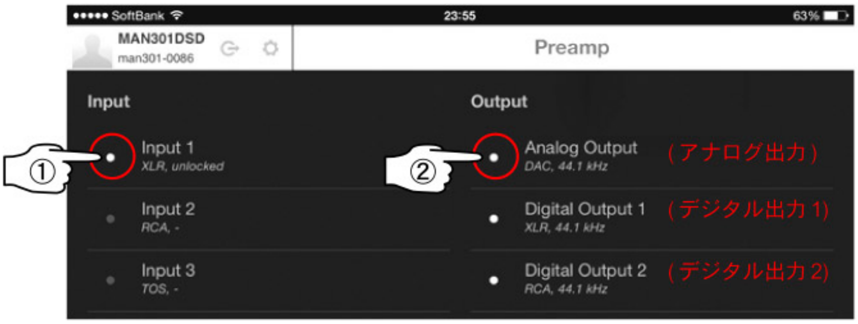
②…「Airplay」のアイコンをタップします。

③…MAN301DSDのアイコンをタップします。

④…音量は画面右下のスライダーで調整できます。

これでiPadからの音源をMAN301DSDで再生できます。

3.「Preamp」→プリアンプ・モードで使用する場合には。この画面で切り替えます。
切り替えると以下のような画面になります。



パワーアンプに接続します
DAC 等に接続します
DAC 等に接続します

1…入出力の切り替え方法

①…「●」をタップして三つの入力を切り替えます (XLR、RCA、TOS の 3 系統)。

②…「●」をタップして出力を選択します (アナログ 1 系統、デジタル 2 系統　同時選択も可能)。

2…入出力ポートの変更方法

また、入出力ポートの名称を機器名等に変更することができます。変更手順は入出力共に同じです。

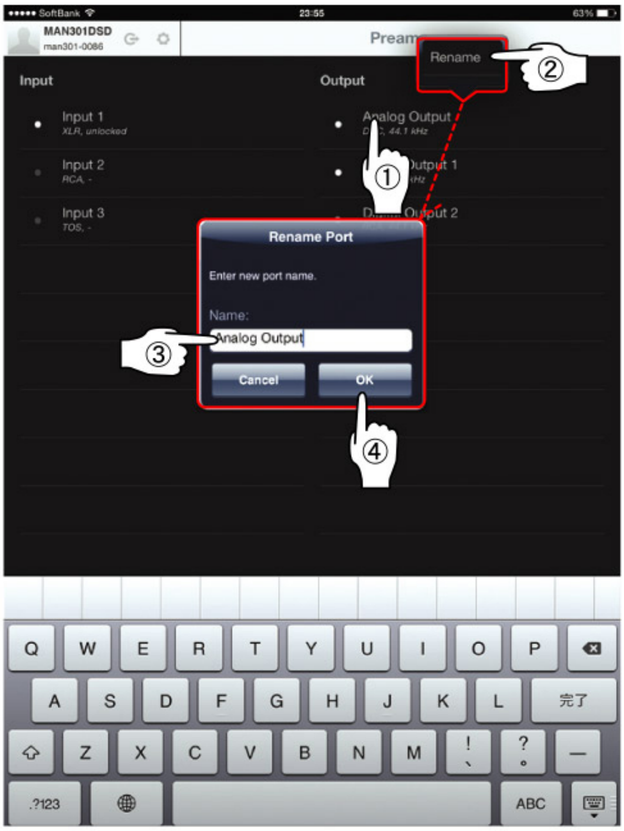
①…名称を変更したいポートを長押します。

②…ポップアップ・メニューの「Rename」をタップします。

③…入力ウインドウが表示されるので、キーボードで新しい名称を入力します。

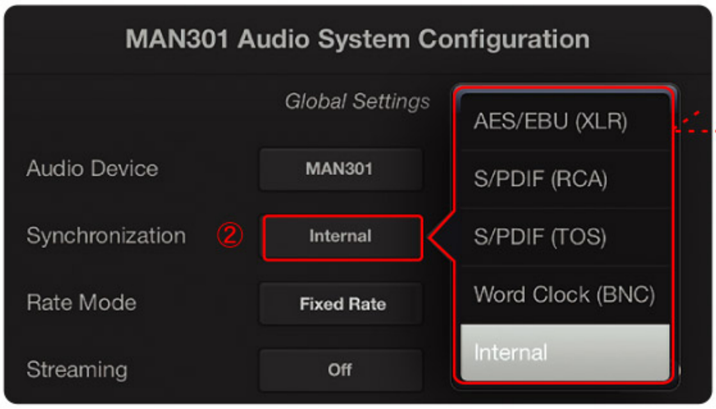
④…変更が完了したら「OK」をタップします。

これでポートの名称変更が完了しました。



3…「Synchronization」（クロック同期）の設定

①…入出力設定画面を開く（P1 参照）。



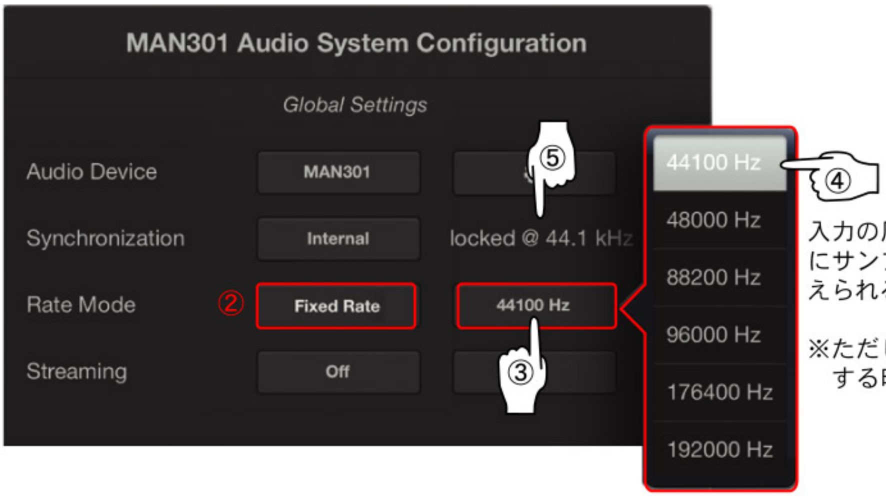
接続されたデジタル入力機器に応じて、同期するクロックが自動的に切り替えられる。

※ただし、外部クロックを使用する時のみ手動で切り替える。

②…接続された入力機器のクロックが自動的に同期します。外部クロックを使用しない限り、設定の必要はありません。外部クロックを使用する場合については P17 を参照して下さい。

4…「Rate Mode」（サンプリング周波数のモード）の設定

①…入出力設定画面を開く（P1 参照）。



入力の周波数に応じて、自動的にサンプリング周波数は切り替えられる。

※ただし、外部クロックを使用する時のみ手動で切り替える。

②…Rate Mode はプリアンプ・モードの場合は「Fixed Rate」に常に固定です。また音源のサンプリング周波数に自動的に追従します。外部クロックを使用しない限り、設定の必要はありません。

※外部クロックを使用する場合

③…ここをタップするとサンプリング周波数を選択するメニューが現れます。

④…必ず音源の周波数に合わせてサンプリング周波数を選択して下さい。

⑤…音源が正常に再生されると、ここに再生時のサンプリング周波数が表示されます。

注）PC オーディオと接続する場合

パーソナルコンピュータと接続する場合には、DDコンバータが必要になります。USB接続の場合にはWeiss社製・INT204、FireWire接続の場合にはWeiss社製・IINT202、INT203の使用をお勧め致します。

■ 外部 D/A コンバータと MAN301DSD との接続方法

D/A コンバータ	接続端子
Weiss DAC 202	FireWire (前頁掲載の Weiss DAC 202 を選択） 注 : FireWire 接続の場合は DAC202 の特別なファーム ウェアが必要（Weiss のダウンロードサイトを参照）
Weiss DAC 202U・DAC202DSD	USB (Weiss DAC202 と同様に設定）
Weiss DAC 202・DAC 202U DAC202DSD ・ DAC 2・ Minerva Medea・Medea+ ・ DAC 1	AES/EBU または S/PDIF 経由でも接続可能
Weiss DAC 2・ Minerva	Firewire (Minerva を選択)
Firewire 接続ができる Weiss DAC 1・Medea ・ Medea+	Firewire (INT202 を選択)
Weiss INT202 ・ INT203	MAN301 にはこれらが内蔵されているので、繋ぐ必要が ありません
他社製の USB D/A コンバータ	USB (適切なデバイスを選択）
AES/EBU または S/PDIF 接続できる 他社製の D/A コンバータ	AES/EBU または S/PDIF 経由で接続

※ MAN301DSDのFirewire端子はFirewire800仕様ですので、Firewire400仕様のD/Aコンバータをお使いになる場合は、Firewire800ー400 の変換をご使用下さい。変換プラグも市販されていますが、しばしば認識されなかったり、また端子付近のケーブルが重くなって接触不良トラブルになる可能性もありますので、変換ケーブルをお勧めいたします。

（注）Linux の場合は Windows や Mac OS と異なって、メーカー提供のハードウェアのドライバーをインストールするのではなく基本的に OS (つまり Linux) 側でドライバーを持っています。Linux のハードウェア対応は以前よりもずっと良くなっていますが、その相性やデバイスのファームウェアの内容などの関係で、100％対応できているわけではありません。そのハードウェアが使えるかどうかは、ケースバイケースである事をご了承ください。

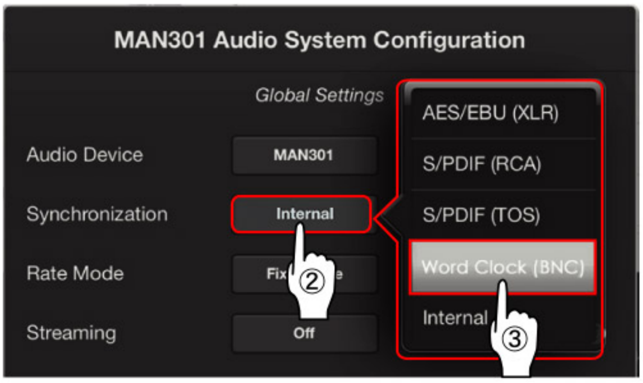
2）クロック同期入出力について

MAN301DSDはサンプリングレート生成のためのクロック発振器（クロック・ジェネレータ）を内蔵しています。このクロック発振器は再生される音源の周波数に合わせて、自動的に適切なサンプリングレートに設定することができます。通常は内蔵クロックモードでの使用をお勧めしています。

さらにMAN301DSD はBNC端子経由で外部ワード・クロックに同期することもできます。もう一つのBNC端子はワード・クロック出力端子です。外部 D/Aコンバーターなどにクロックを供給できます。

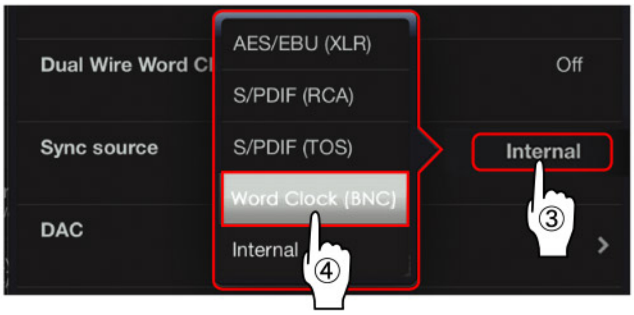
1…外部ワードクロックの設定方法

①…入出力設定画面を開く（P1 参照）。
②…「Synchronization」のクロック項目をタップしメニューを開きます。
③…「Word Clock (BNC)」をタップして選択します。



または次の方法でも設定できます。

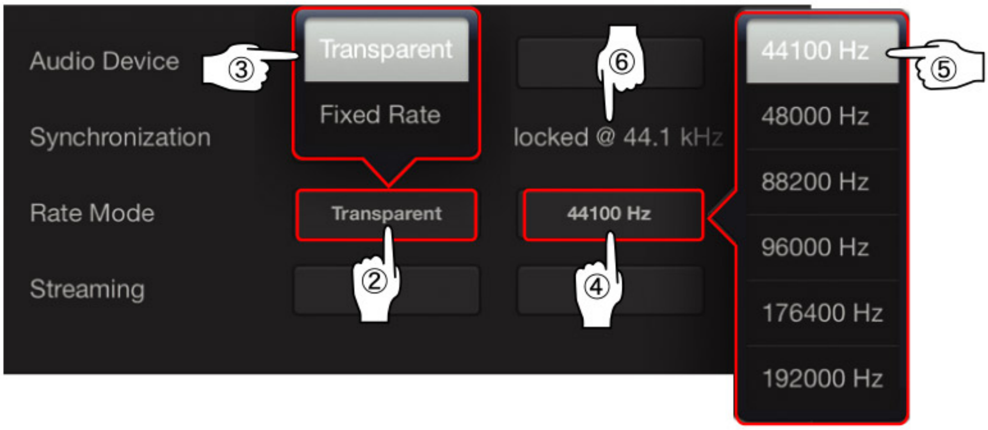
①…入出力設定画面を開く（P1 参照）。
②…「Audio Device Controls」を開く（ P5 参照）。
③…「Sync source」のクロック項目をタップしメニューを開きます（P6 参照）。
④…「Word Clock (BNC)」をタップして選択します。



※どちらを変更しても、相互に連動して変更した変更が反映されます。

2…「Rate Mode」(サンプリング周波数のモード)の設定

①…入出力設定画面を開く(P1 参照)。



②…ここをタップすると、サンプリング周波数の二つのモードを選択するメニューが現れます。

・「Transparent」

音源と同じサンプリング周波数を選択して入力・再生する標準モードです。
外部クロックを使用する場合には、**手動で音源と同じサンプリング周波数に設定**して下さい。
設定が異なると出力がミュートされ、再生されません。
DSD 音源を Transparent で再生する場合には 176400Hz に設定して下さい。

・「Fixed Rate」

音源のサンプリング周波数には関係なく、再生する周波数を固定して再生するモード。そのためどんな周波数音源も、ここで選択された周波数に変換され再生されます。96kHz 以上のサンプリング周波数に対応していない古い D/A コンバータを接続している場合や、異なる周波数の音源を連続再生させる場合にはこちらを選択すると便利です。

③…必要に応じて上記の二つのモードから選択して下さい。
④…ここをタップするとサンプリング周波数を選択するメニューが現れます。
⑤…設定する周波数をタップして選択して下さい。
⑥…音源を再生すると、ここに再生時のサンプリング周波数が表示されます。

注)サンプリング周波数の設定について

「Fixed Rate」に設定した場合には任意のサンプリング周波数に設定して頂いてかまいませんが、「Transparent」を選択した場合には、必ず音源の周波数に合わせて設定して下さい。